

パーシモンウォール 施工ガイド



パーシモンウォールの特性

～高機能・多機能～

- 優れたニオイの吸着分解機能
- 優れた調湿効果
- 安心の天然素材 100%
- シックハウス対応

も く じ

1. 美しく、綺麗に仕上げるためのポイント	
パーシモンウォールを綺麗に塗るための8つのポイント	・・・1
2. パーシモンウォールを塗る前に注意して頂きたいこと	
2-1 クラックが起きる可能性	・・・2
2-2 当社推奨品の使用	・・・2
2-3 のり付き紙テープの使用方法和注意点	・・・3
2-4 のり付き紙テープの保管について	・・・3
2-5 ボード下地について	・・・3
2-6 仕上げ作業前のチェック	・・・3
2-7 カラーについての注意点	・・・3
2-8 施工中・施工後の除湿と換気	・・・3
2-9 製品の仕様上の注意	
3. 施工の基本的な流れ	
3-1 ペール缶の開封手順	・・・4
3-2 周囲を汚さないための養生	・・・4
4. 下地別施工方法	
4-1 下地が石膏ボードの場合（参考例）	・・・5
4-2 下地が石膏ボードの場合（V型の溝の処理）	・・・6
4-3 下地がビニールクロスの場合	・・・7
4-4 下地が既存の砂壁・繊維壁の場合	・・・7
4-5 下地シミ・アク止めの処理	・・・7
4-6 下地が合板の場合	・・・8
5. 1-ナ-の処理	
5-1 入隅の処理方法	・・・9
5-2 出隅の処理方法	・・・9
6. 基本塗り	
ベネチアンウェーブ	・・・10
7. パーシモンウォールローラー 標準施工仕様書	・・・11
8. お手入れ	・・・12
8-1 汚れ落とし	・・・12
8-2 傷の補修	・・・12
8-3 クラックの補修方法	・・・12
9. 下地別施工手順	・・・13

1. 美しく、綺麗に仕上げるためのポイント

パーシモンウォールを綺麗に塗るための8つのポイント

1. 作業にり掛かる前に十分に攪拌して下さい。
2. パーシモンウォールは、直射日光を避けて風通しの良い冷暗所に保管してください。
3. 品質保持期間を守ってご使用ください。（未開封約5ヶ月・開封後約1ヶ月）
4. パーシモンウォールは水性のため、+4℃以下にならないよう保管してください。
5. パーシモンウォールに他の材料を入れないでください。他の材料を入れてしまうと、品質の低下や変質などの原因となる可能性があります。
6. 塗り厚に気をつけて施工をしてください。コテ塗りの場合は0.7～1.0ミリ厚、ローラー塗りの場合は0.2～0.3ミリ厚になります。薄く塗りすぎてしまうと、下地が透けて見えたり本来の性能が発揮できない可能性があります。厚く塗りすぎてしまうと、1缶ありの施工面積が減り、クラックが発生する原因にもなります。
7. 下地の状況・種類によりアク・シミが出ると予測される場合は、必ず当社推奨の**アク止めシーラー**を塗ってシミやアク等が出ないことを確認してください。
8. 製品は、天然の原料を使用しているためロットにより多少色調の異なる場合があります。

仕上がりも施工者により多種多様なため、色とパターンについては施工する前に1～2㎡ほど実際に現場で施工し、確認してください以上のポイントに注意して**パーシモンウォール**を施工してください。

これらのポイントを守らずに施工した場合、綺麗に仕上がらない・性能を発揮できない・クラックが入る等の問題が発生する可能性がありますので、ご注意ください。

2. パーシモンウォールを塗る前に注意して頂きたいこと

2-1 クラックが起きる可能性

パーシモンウォールは耐クラックに優れた製品ですが、稀にクラックが発生する可能性があります。以下の項目の事由によりクラックが発生した場合は、当製品の責任の対象外となりますのでご注意ください。

1. 施工者の不備によるもの。
2. 建物本体が自然災害（地震・強風・積雪）等で揺れた場合
3. 構造体（木造）の未乾燥によって発生する、建物のくるいの場合
4. 鉄骨構造等の異常な揺れの場合
5. パーシモンウォールの温度差がある場合（20℃以上の温度差）
6. 地盤による建物の揺れの場合
7. 1～6以外の、下地が原因の場合当ガイドラインは1つの参考例としてご案内しておりますが、上記の理由から、クラックが発生する可能性が「絶対にない」わけではないことをご理解ください。

また、施工される環境（例えば、下地が石膏ボードの場合とビニールクロスの場合など）により施工方法や下地の処理方法が異なります。

その為、当ガイドラインに記載されている方法をしっかりと実行し、クラックの最も発生しづらいベストの状態になるよう施工してください。

2-2 当社推奨品の使用

パーシモンウォールの下地処理をする場合、パテやシーラーは当社の推奨品をなるべく使用するようにして下さい。

推奨品以外のパテ・シーラーを使用した場合、クラックや剥離、アクの発生などの原因となる可能性があります。

2-3 のり付き紙テープの使用方法と注意点

1. ボード（特に出隅）の削りかすは、綺麗に取り除いてから貼りましょう。
（削りかすを残したまま貼ると気泡の原因となります）
2. まずスプレーで対象となる壁に霧吹きでまんべんなくたっぷり水分を与えます。
3. のり付き紙テープを貼り付けてください。のり付き紙テープにもスプレーで多めに水分を与えます。
4. 壁にのり付き紙テープを貼り付けたら、ただちにゴムベラで気泡と水分しごく様にテープから取り出して下さい。
5. 気泡が入りましたら、ゴムベラで必ず押さえてください。
※気泡は必ずこの時点で取り除いて下さい。
6. 隅に隙間が出来たら、ゴムベラでなでるようにして平らにしてください。

接着力のおちたのり付き紙テープは使用しないで下さい。
気泡の原因となりますので、のり紙テープは接着料が強いため湿気に気を付け保管して下さい。

2. パーシモンウォールを塗る前に注意して頂きたいこと

2-4 のり付き紙テープの保管について

湿度の多い場所での保管はテープが湿気を含み接着能力が落ちてしまいます。

接着能力の落ちた紙テープを使うと、施工後に気泡がでる危険性がありますので、保管には十分に気をつけてください。

2-5 ボード下地について

ボード下地の赤ズミ・チョーク等は、仕上げ後シミとなり浮いてくる場合がありますので、気をつけて下さい。

2-6 仕上げ作業前のチェック

パーシモンウォールの仕上げ作業に入る前に、必ず色の確認と塗りパターンの試し塗りをしてください。

2-7 カラーについての注意点

パーシモンウォールのカラーチャートは、塗り壁用のカラーチャートです。

通常のペンキカラー見本と違い、塗り壁特有の光と影による屈折でサンプル帳の色と違う色に見えることがあります色合わせの際は十分に気をつけてください。

また、**パーシモンウォール**は天然カラーを使用しているため、試し塗りをし、確認をしてから施工してください。

2-8 施工中・施工後の除湿と換気

換気の悪い環境で大量に**パーシモンウォール**を使用し施工した場合、**パーシモンウォール**の水分が放散され室内に充満することがあります。

その場合、住宅で無垢材（桐・杉など）を使用していると反りなどの狂いが発生する可能性があります。

施工中・施工後は、**パーシモンウォール**が乾燥するまで換気または除湿機を使い、湿気に気をつけてください。

2-9 製品の仕様上の注意

1. このは内壁用仕上げ材です。本来の目的以外に使用しますと、本来の性質を 発揮できないばかりか、人体に悪影響を及ぼすことがあります。

2. **パーシモンウォール**を使用する際は手袋を着用してください。

3. 開封前の品質保持期間は5ヶ月です。開封後、1ヶ月程度の保存は可能ですが、なるべくお早めに使い切るようにしてください。

4. 商品の特性上、鋭利な部分があります。取り扱いには十分ご注意ください。

5. 幼児の手の届かない場所に保管してください。

6. 家財への養生が不適切ですと、汚れや破損の恐れがありますので、養生は十分に行ってください。

7. 合板・木材に塗りますと、アクが出る場合がありますのでご注意ください。

8. 施工後、手で触れる状態まで乾燥するには約24時間、完全硬化には1週間程度かかります。

3. 施工の基本的な流れ

3-1 ペール缶の開封手順



手順1 ふたの溝に沿って、カッターで切れ目を入れます。



手順2 リングに指を通し、回転方向へ強く引きます。



手順3 残りの2つのリングに指を通し、上に強く引き上げます。

3-2 周囲を汚さないための養生

実際に施工する前に、まず養生をして周囲のものが汚れないようにします。壁との境目部分の養生は、実際の仕上がりにも影響してきますので丁寧に行いましょう。

また、床や家具等に**パーシモンウォール**が付着してしまっても、濡れタオルで簡単に落とすことができます。

手順1:

施工面付近の家具、電化製品、家財等を移動します。施工面から最低1m程度離してください。

手順2:

柱・鴨居・ドア枠・巾木・スイッチ・コンセント等に養生テープを貼ります。

手順3:

ビニール付き養生テープで床や窓ドア等を養生します。

手順4:

その他、**パーシモンウォール**等が付着しては困る場所を養生しておきます。



※ 手順2の際、施工面からおおよそ2ミリ程度離して養生テープを貼ってください。綺麗に仕上げるための重要なポイントになります。

4.下地別施工方法

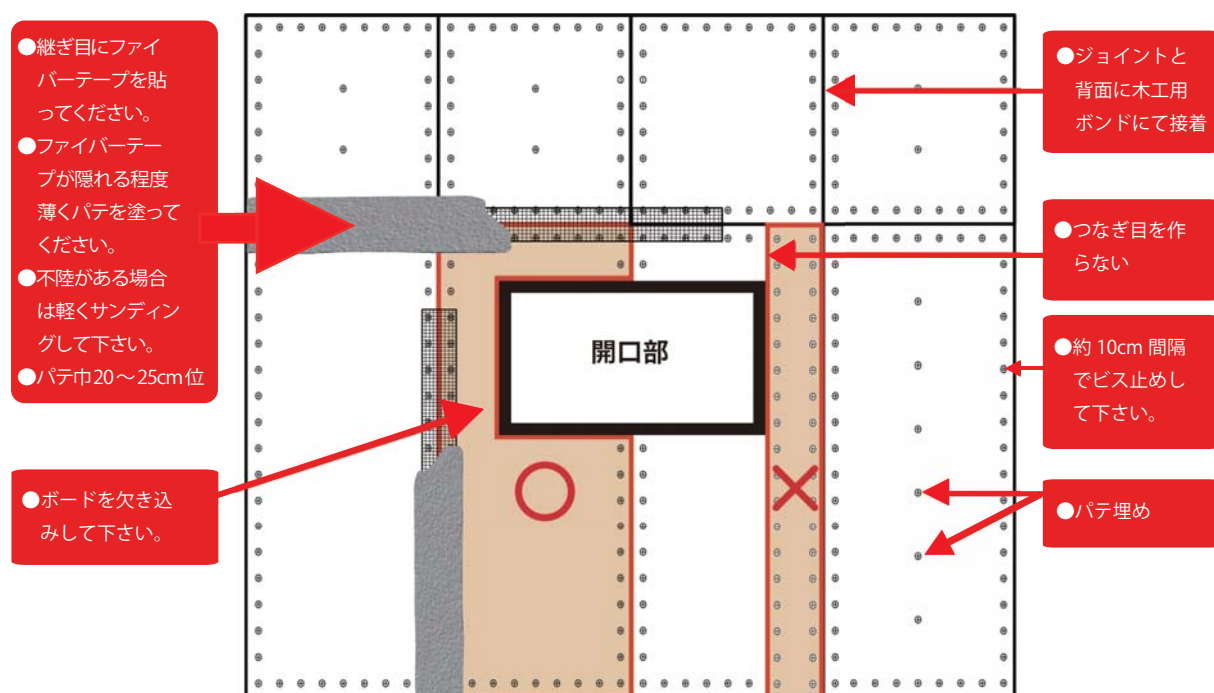
4-1. 下地が石膏ボードの場合（参考例）

基本的に**パーシモンウォール**は、割れにくい材料です。

パーシモンウォール施工後に発生する可能性のあるクラックの原因は、全て下地によるものです。

当ガイドは一つの参考例として記載しております。

下地からくる割れ、透けの問題が出ないように、施工して下さい。



※赤ズミ又はチョーク等が仕上げ後シミとなり、浮いてくる場合がありますので気を付けてください。

1. 基本的に横目地が出ない様3×8板及び長尺板をご使用して下さい。
2. 開口部はボード欠き込みジョイントが出ない施工をして下さい。
3. 間柱は、反りによる狂いの少ないものを使用する事をお奨めします。
4. プラスターボードは、12mm厚のベベルボードを推奨します。
5. プラスターボードの継ぎ目と背面は必ず木工用ボンドで接着して下さい。
6. プラスターボードの外周面は約100mmピッチでステンレス製ビスで固定してください。
7. プラスターボードの継ぎ目にファイバーテープを貼ります。
8. ファイバーテープの上に隠れる程度に薄くパテを塗ります。（巾20～25cm位）
9. ビス頭もパテで平らに埋めてください。
10. ローラー又は吹き付け下地のパテ処理はコテ塗りの場合より10cm位広く行ってください。

4.下地別施工方法

4-2. 下地が石膏ボードの場合（V型の溝の処理）

石膏ボードがベベルボード（角が斜めになっているもの）の場合、ボードとボードの継ぎ目にV型の溝ができます。そのV型の溝の処理手順を解説したものが、以下の図となります。

ベベルボードの場合

パテ施工例（推奨パテ）

①先にV溝部のみにパテして下さい。

（ボード面と平らになる様にしてください。）

パテが乾燥してから、ファイバーテープを貼ってください。

（パテが生乾きの状態でファイバーテープを貼らないでください。）

段差は軽くサンディング

約 12 ～ 15cm

②接合部と背面に必ず木工用ボンドを付けてください。

③ファイバーテープ

④ファイバーテープの上からパテ（推奨パテ）で平らにパテ処理をして下さい。

接着・固定

ビスのピッチとボードの接着につきましては、割れにくい方法として必要なことですので、必ず実行してください。

1.ボードのジョイント部と背面には必ず木工用ボンドを付けてください。

2.階段廻りの胴差し部及び横方向への継ぎ目はボード面に接着剤が付きにくいので、ボードの裏側に接着剤を付けて補強します。

■ 注 意 ■

必ずパテ乾燥後、仕上げてください。

※乾燥時間4時間（気温約20℃ 湿度約40%の場合）

4. 下地別施工方法

4-3. 下地がビニールクロスの場合

ビニールクロスの下地処理

1. 厚手（起伏がある）のビニールクロスは専用パテで平面の凹凸を埋め平らにして下さい。乾燥後**パーシモンウォール**を塗りあげます。
2. 軽い汚れは中世洗剤を使い、汚れを落としてから塗ってください。
3. タバコ又は、汚れのひどい場合は弊社推奨の**アク止めシーラー**を塗りましょう。
（1度で止まらない時は複数回塗ってください。）乾燥後**パーシモンウォール**を塗り、仕上げます。
4. 厚手のビニールクロスは気泡が出やすいので気を付けて下さい。
もし気泡が出た場合、ソフライトパテを塗り、その上から**パーシモンウォール**で仕上げて下さい。
5. ビニールクロスのジョイントに割れがある場合は、めくれ上がっている部分をカッターナイフでそぎ落とし。その部分を**パテ**で埋め乾燥後、ファイバーテープを貼り、再度**パテ**で処理し、平らにして下さい。

4-4. 下地が既存の砂壁・繊維壁の場合

既存の砂壁、繊維壁の下地処理

パーシモンウォールをミルク状とヨーグルト状の間位の柔らかさまで水で薄め、ローラー又は刷毛で砂壁・繊維壁全面に塗り、これで定着します。
弊社推奨の**アク止めシーラー**を塗り、**パーシモンウォール**を塗り仕上げます。

4-5. 下地シミ・アク止めの処理

ビニールクロスの場合

1. 既存のビニールクロスの汚れは、経年又は使用頻度により処理方法が異なります。
2. 弊社推奨の汚れ落とし用洗浄液をスプレーし、濡れタオルにて綺麗に拭きとります。
汚れがひどい場合は弊社推奨の**アク止めシーラー**を塗り（1度で止まらない場合は複数回塗って下さい。）乾燥後**パーシモンウォール**を塗って下さい。
3. 汚れが落ちたら気になる個所の目地処理をし、乾燥後**パーシモンウォール**を塗って下さい。

合板下地の場合

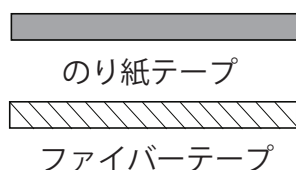
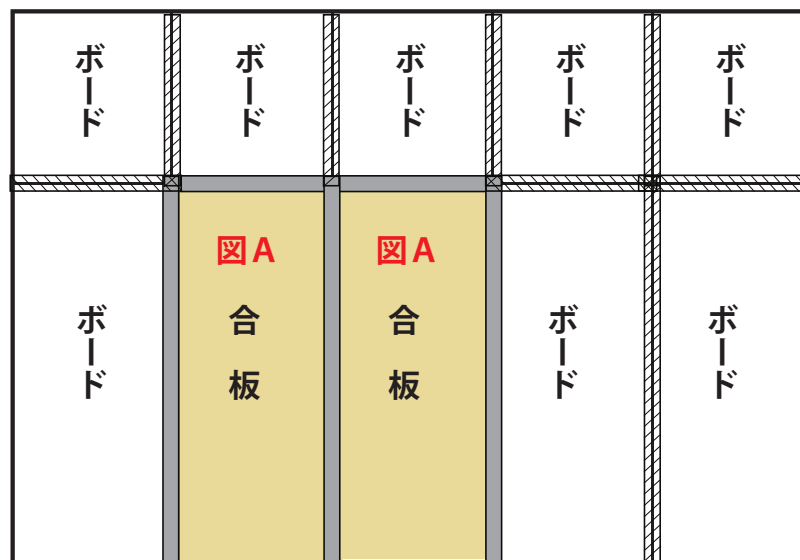
1. 合板の上に弊社推奨の**アク止めシーラー**を使用します。（**2～3回塗り**）アクが出る様でしたら、乾燥後もう一度塗って下さい。
2. アクが出ない事を確認してから、**パーシモンウォール**で仕上げて下さい。

4.下地別施工方法

4 - 6. 下地が合板の場合

合板（ベニヤ）下地がある場合の下地施工法（参考例）

合板はアクと目地割れの恐れがあるのでボードの下になる様、施工して下さい。



1. プラスターボードと合板の継手は、割れ止めにのり付き紙テープを貼ります。
2. 合板と合板の継手にも、のり付き紙テープを貼ります。

※のり付き紙テープの使用方法注意点 3 ページを参照してください。

アク止め

合板が表面に出る場合、あらかじめ弊社推奨の**アク止めシーラー**を塗ります。以上の処理でアクが止まらない場合、重ね塗りし、その後**パーシモンウォール**で仕上げます。

ビニールクロスの上から塗る場合の施工手順

1. 汚れが軽い場合、アクが出ない様、弊社推奨の洗浄剤を使用し汚れを落とし手から仕上げ作業に移ります。（洗浄剤を壁に向かって吹き、濡れタオルで拭き取って下さい。）
2. 汚れが多い場合は、弊社推奨の**アク止めシーラー**を使用して下さい。1度で止まらない時は複数回塗って下さい。

弊社推奨以外のアク止め剤を使用しますと。施工後、臭い又は化学的な物質がでる可能性がありますので、弊社推奨アク止めシーラーをお奨め致します。

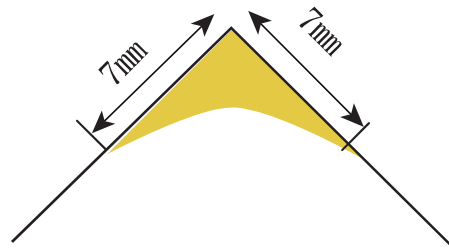
5. コーナーの処理

5-1 入隅の処理方法（参考例）

ウレタン系シーリング材施工例

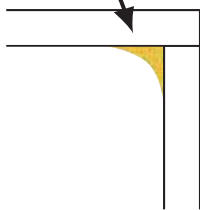
ウレタン系シーリング材は1本で約10M～12Mとなります。

例：6帖 壁・天井全ての場合（22M）約1.6本

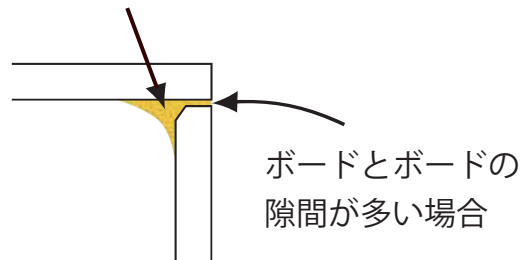


コーキングガンでウレタン系シーリングを充填し、人差し指で押し付ける様に伸ばしながら塗りつけて下さい。

木工用ボンド



入隅にベベルボード使用の場合

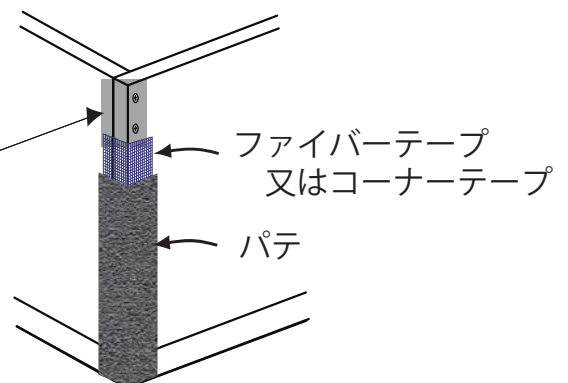


シーリング剤が乾燥しないまま仕上げ作業に入りますと表面にクラックが入ることがありますので、気を付けてください。
ボードとボード間に隙間が大きい場合はシーリング剤が多くなりますので1本10M～12Mはあくまで目安として下さい。

5-2 出隅の処理方法（参考例）

ファイバーテープを使用し、その上からパテ処理をしてください。

プラスターボードの削り粉は、十分落としてから施工して下さい。
木工用ボンドを水で薄めローラー又はハケで塗りシーラーとして使ってください。
ファイバーテープの付きがよくなります。



6. 基本塗り

ベネチアンウェーブ（参考例）

仕上げ作業に入る前に必ず、お施主様立会いの上で、色の確認と塗りパターンの試し塗りをを行い、了解を頂いてから作業に入ってください。

ベネチアンウェーブは目地部の不陸を目立たなくする為またより早く仕上げる為（コストダウン）に考案された仕上げ方法です。

専用コテ



専用コテは 180mm210mm225mm と 3 種類ありますので使い分けて下さい。専用コテの裏面はやわらかな曲面になっていますので、非常に塗りやすいコテです。

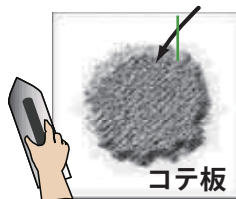
専用コテ板



非常に軽く体に負担のかからない専用コテをお奨めします。

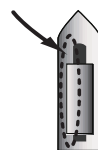


コテムラ
（ベネチアンウェーブ）

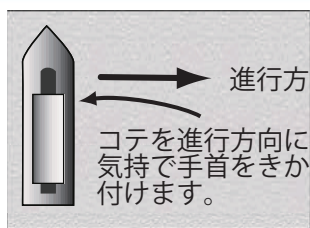


コテ板

裏に**パーシモンウォール**が
着いている状態

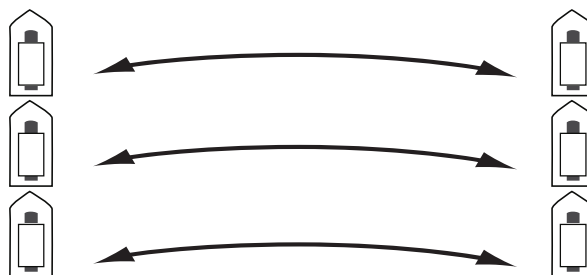


0.3mm厚の
ステンレス製コテ



進行方向

コテを進行方向に軽く浮かせる
気持で手首をきかせパターンを
付けます。



パーシモンウォール専用ステンレス製0.3mm厚コテを使用し1.0～1.5mm厚でベネチアンウェーブ（コテムラ）で塗ってください。

パーシモンウォールをコテの裏側に乗せる様にこすり取り、壁面に塗りつけて下さい。コテの柄を軽く持ち直し、力を入れない様塗り付けた上を滑らせコテで円を描くようパターン（ベネチアンウェーブ）を付けてください。

うす塗りですからコテを動かすたびに乾燥するので、なるべく早く作業して下さい。
気温が高い時はボードの温度が上がっていますので、ボードに水分を取られ乾燥が早く塗りにくくなり（パターンが出ない）ますので、あらかじめボードに霧吹き等で濡らしておく
と作業性が良くなります。
厚塗り又は2度塗りしますと、1 缶当たり 20 m²塗ることが出来ません。また厚く塗ります
と割れる可能性がありますので気を付けて下さい。

7. パーシモンウォールローラー 標準施工仕様書

容量(kg)	施工法	標準塗り回数	標準施工厚	標準塗布量
20・10	ローラー、刷毛、吹付	2回塗り	0.2～0.3mm	0.3～0.4kg

※標準施工可能面積 40 ～ 50 m² (20kg 缶)

※ 使用するローラーは、マイクロファイバーローラー 中毛を推奨しています。

※ 本製品の性質上、成分の沈澱等がございますので、施工前に良く攪拌して下さい。

※ 本製品は室内専用ですので、浴室や外壁等にはご使用いただけません。

塗り方と注意点

1. 下地が石膏ボードなどの場合は、ボードのジョイント部分や出隅部分・ビス頭などは、パテ処理を行い、サンドペーパー等で平滑に処理して下さい。
2. ボードのジョイント部分や出隅部分は、コーナーテープやファイバーテープ等を貼ってパテ処理を行って下さい。
3. 石膏ボード等の入隅部分は、水性ウレタンシーリング材等を充填し、適度なアールに指やコーキングヘラ等で均して下さい。
4. 合板やコンクリート等のアクが出る下地の場合は、必ずアク止め処理を行って下さい。
又、リフォーム時で塗り壁・塗装壁、古いビニールクロス等もアクによる変色の可能性が高いので、アク止め処理を行うことをお勧め致します。
5. 本製品は、多孔質原料を使用していますので、ローラー塗りで仕上げる場合、施工厚の微妙な段差や模様形状の違いによる影の発生があります。
6. 上記の現象を軽減するために、ローラーを縦横縦と転がし、塗り厚や模様が均一になるように施工して下さい。
7. 本製品を水で希釈する場合は、本製品に対し2～3%の蒸留水で希釈して下さい。
8. 本製品は安全性の高い製品ですが、作業中は、作業しやすい服装をし、手や目の保護として手袋やゴーグルを着用して下さい。
9. 施工後、乾燥するまでは必ず風通しを良くし、換気を行って下さい。
10. 施工は、炎天下や氷点下では行わないようにして下さい。硬化不良やひび割れ、剥離等の原因となります。
11. 本製品はクラックの発生しにくい製品ですが、下地が動くことによりクラックは発生致します。クラックの発生しにくい下地作りが大切となります。

取り扱い上の注意点

1. 品質保持期限は、未開封の状態で製造日から5ヶ月となります。開封後はお早めにご使用ください。
2. 保管は、直射日光、高温多湿となる場所を避け、風通しの良い場所で、保管して下さい。本製品は水性ですので、凍ってしまわない様に、摂氏4℃以上の場所で保管して下さい。
3. 本製品は安全性の高い製品ですが、あくまでも建築資材ですので、皮膚や目に付着した場合には、速やかに水にて洗浄し、異常がある場合には、医師の診断を受けて下さい。

8. お手入れ

8-1 汚れ落とし

日常生活において付着した汚れ等は、下記の要領で対応してください。

種類 \ 方法	消しゴム	メラミン スポンジ	サンドペーパー	中世洗剤
鉛 筆	◎	○	△	×
ペン・マジック	○	◎	◎	×
手 あ か	○	◎	△	×
コーヒー・お茶	×	×	×	×
醤油・ソース	×	×	×	×

◎・・・きれいになる ○・・・ほぼきれいになる

△・・・多少残る ×・・・きれいにならない

基本的に中世洗剤はご使用いただけません

やむを得ずで使用する場合は、こすらずに汚れの上から軽くたたくようにしてください。

上記にて対応できない場合は、タッチアップ材をご使用ください。

色を付けた場合は、補修の時のために色名を控えておいてください。

8-2 傷の補修

小さな傷の場合

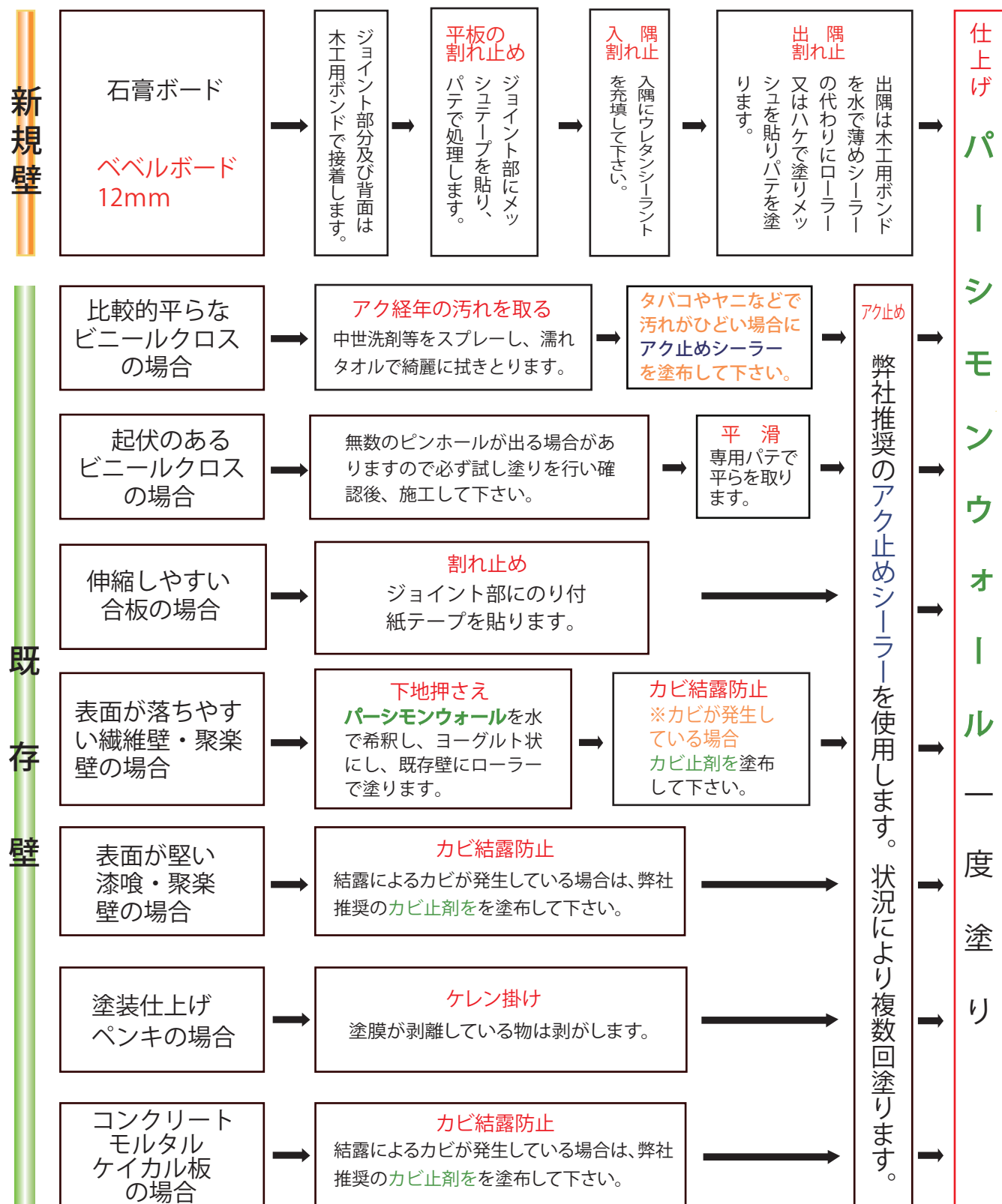
綿棒又は筆にパーシモンウォールを少量つけ毛先でたたく様になじませてください。

クラックの補修の場合

1. クラックの両側にマスキングテープを貼ります。
2. 仕上げと同じ材料をクラックの上から指で押しこむ様に付けます。
3. マスキングテープを取り除きます。
4. 濡れタオルでぼかすようになじませてください。

※その他、ご不明な点はお問い合わせください。

9. 下地別施工手順



下地にカビが生えている場合は、ガイドラインに従った方法で事前に殺菌・消毒してから施工して下さい。
又、下地からアクが出てると思われる場合には使用するアク止め剤は弊社推奨のアク止めシーラーを使用して下さい。